

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38015	
事業名	IoT推進コンソーシアム事業費						
評価担当課	所属名	経)経済戦略推 イノベーション					
	課長名	吉田 泰斗	担当者名	樋口 拓哉	電話番号	211-2379	
施策名	主	創造性を生かしたイノベーションの誘発					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	・先端技術によるビジネス活用に向け、産学官の連携機運を醸成し、人材育成等の支援やマッチング等を行う。				
		長期	・地域の資産や知恵を結集した先端技術によるイノベーションの創出と、それが持続的にビジネスに繋がるエコシステムの構築を目指す。				
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市IoT推進コンソーシアム運営(産学官の連携促進)</li> <li>・セミナー開催、情報発信、国内外向け市内IT産業のPR活動</li> <li>・先端IT技術を扱う人材育成の推進による市内IT企業の高度化推進</li> <li>・先進的ITビジネス創出補助金:IT活用による先進的なビジネス創出に向けた実証事業等に対する経費補助</li> </ul>					
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI普及啓発セミナーを2回開催、計109人が参加。AI人材育成プログラムを5回開催、計64人が参加。先端技術活用事例などを紹介するテクニカルセミナーを4回開催、268人が参加。最新技術普及促進イベントを開催、開催後5日間における視聴回数389回(ユニーク視聴者173名)。</li> <li>・バイオ企業×IT企業に関するセミナーを2回開催、計60名が参加。バイオ企業からIT企業に求めるニーズ発表会を開催、85名参加。</li> <li>・首都圏や関西における4つの展示会に出展し、協業等の創出数は計16件(79,480千円)。</li> </ul>						
事業実施における工夫点	経済産業省とIPA(独立行政法人情報処理推進機構)による「地方版IoT推進ラボ」選定により各種活動への支援を受けながら実施						
対象者	IT企業、他産業企業、各サービスを利用する市民			開始	平成30年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	なし						
他都市の状況	全国106の自治体において地方版IoTラボが選定されており、地域の特性に応じた先端技術に関する取組みが行われている						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	42,993	44,000	41,519	46,000	
うち特定財源	7,013	11,500	9,028	6,750	
人工	0.9	0.8	0.8	0.5	
人件費	6,480	5,760	5,760	3,600	
計(事業費+人件費)	49,473	49,760	47,279	49,600	
事業費の内訳	令和3年度決算	<ul style="list-style-type: none"> <li>● さっぽろ産業振興財団への補助金 20,125千円</li> <li>● 先端技術を用いた実証事業を行う企業への補助金 11,062千円</li> <li>● 課題解決特化型プロジェクト支援に関する補助金 3,000千円</li> <li>● 委託料 6,994千円</li> <li>● 市事務費 339千円</li> </ul>			
	令和4年度予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>● さっぽろ産業振興財団への補助金 22,129千円</li> <li>● 札幌AI道場に関する補助金 16,000千円</li> <li>● 市内IT産業国内外PR事業に関する補助金 7,200千円</li> <li>● 市事務費 671千円</li> </ul>			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	先端技術に関する人材育成プログラムの参加人数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	649	700	759	750	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	先端技術を活用しビジネス化が見込める新規事業創出件数(累計)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	9	13	13	17	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	札幌市推進IoTコンソーシアムの産学官連携を活用し、AI技術に関する問合せや相談を受け、市内企業や大学へ連携することでビジネスマッチングを行っており、産学官連携を活用した取組みとして、効果的に実施できていると評価する。また、市内IT産業の国内外向けPR業務では市内IT産業と首都圏企業との協業創出に繋がっており、計16件(79,480千円)の実績を生んでいる。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	AIやIoTなどの先端技術に関するニーズは日々増大している状況で人材育成、普及促進、ビジネスマッチング、プロジェクト創出、企業への補助と網羅的に活動できているため、現状の規模が適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	本市及びさっぽろ産業振興財団によって札幌市IoT推進コンソーシアムの事務局を担っているが、幅広いネットワークとノウハウを持つ財団とともに進めることで産学官の有機的な連携を推し進めることが可能となり、他産業との連携による新たな展開も期待できるため適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	AIやIoTなどの先端技術は、市内IT企業が今後注力を目指す分野であり、他産業企業においても生産性向上に向けてこれらの技術の活用が期待されている状況である。本事業はこのような状況において、他では代用できない機会を提供しており、対象者のニーズに応えているとともに、アンケート結果を見ても多く参加者が満足をしている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	AI人材育成に関して、アンケート結果等を踏まえてニーズのある次年度の企画を検討することで、更なる参加者増を目指す。 市内IT産業PRに関して、企業が出展を希望する展示会が多様化してきたことから、そのニーズに柔軟に対応できるよう、事業内容の変更を含めて検討する。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	市内IT産業PR等業務は、より効率的な事業運営のため、委託による実施からさっぽろ産業振興財団への補助金交付による業務実施に切替えた。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	IT人材育成・普及啓発の拡充や、実証事業を行う企業に対する補助等で地場企業における動きを活発化させることができた。PR業務では国内外に札幌AIラボや札幌の技術力を広く周知することができ、市内IT産業と首都圏企業との協業を複数創出することができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 令和4年度までの取組に加えて、ニアショア支援やIT企業向け補助金などのIT企業向けの支援を統合して、より効果的な実施を行うこととした。			
	予算	● 拡充    ○ 現状維持    ○ 縮小    ○ その他 事業のレベルアップに伴い、予算の拡充を検討する。		見直し効果額	0 千円